

# 広報課 活動実績(令和5年度)

当課は、JHという組織及びJHが行っている研究が、研究者や企業など広く認知されるように広報活動を行っている。

## 1. ホームページの充実

JHドメインにある各種ページの更新、新規研究概要の掲載、既存研究課題の英語ページ等の掲載



文字サイズ 中 大 表示色 A A English 検索

トップページ

招徠について

事業の概要

広報

[トップ](#) > [広報](#) > [6NCリトリート](#) > [6NCリトリート2023](#) > [開催報告](#)

### 開催報告

6NCリトリートポスターセッション「6NCが拓く新たなサイエンスの地平」を令和5年4月22日(土)に開催しました。

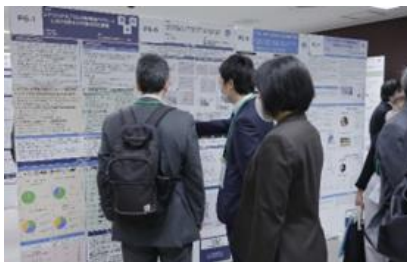
今回、「第31回日本医学会総会2023東京」において、プログラム内で6NCリトリートを開催することになり、若手研究者のポスターセッションを中心とし、6NCの研究者・医療者の交流を図りました。また、優秀なポスター課題については、理事員及びH本部長員の表彰を行い、表彰状及び盾を授けました。

今回の6NCリトリートは初めての開催でしたが、研究・医療関係者など約400名の皆様にご参加いただきました。

### 6NCリトリート2023

▶ [開催概要](#)

▶ [開催報告](#)



### 抗腫瘍薬による胎盤形成・機能障害メカニズムの解析 基盤の作出

#### 研究概要

近年、がん治療成績は目覚ましい向上をみせています。それに伴い、多くのがんではいかに治療を生き抜くか、という時代から、いかに治療中、治療後の患者さんの生活を向上させるか、というところを議論する時代となってきています。特に、Adolescent and Young Adult (AYA) 世代のがん患者さんは、治療中、治療後に様々なライフイベントに直面するため、社会として個々に合わせたサポートを今後ますます充実させていく必要があります。AYA世代のライフイベントの中で、妊娠・出産は最も大きなものの一つですが、近年の晩婚化、母体年齢の上昇により、妊娠中に発見されるがんの頻度は上昇傾向であり、課題となっています。

妊娠中のがん治療は、お母さんに対して最善のがん治療をいつ、かつ赤ちゃんへの不利益を最小限にする、という原則の下行われます。抗がん剤を用いた治療は、妊娠中のがん治療の中心的な役割を担います。抗がん剤は、薬の種類によって異なるものの、赤ちゃんが臓器を作っている期間(妊娠初期)を過ぎたら使用可能であり、リスクを大きく上回るベネフィットが報告されています。

胎盤は、妊娠中に赤ちゃんを育てる最も重要な臓器です。赤ちゃんを育てる他にも、お母さんに授けられた薬をブロックするなどの働きもしています。これまで、妊娠中の抗がん剤の影響に関しては、多くの場合赤ちゃんに対する直接的な影響を元に評価されてきました。一方で、赤ちゃんを育てる役割を担う胎盤に関しては、抗がん剤が何らかの影響を与えるのか、あるいは与えないのかに関して、はつきりしたことはほとんどわかっていません。

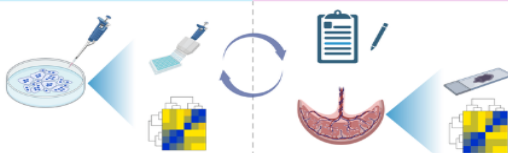
そこで、本研究では、抗がん剤が胎盤にどのように影響するかを、胎盤を形成する細胞(栄養胎盤細胞)モデルを用いて検討するとともに、妊娠中にがん治療を経験した妊婦さんの情報や胎盤を収集し、その後の解析の基盤を確立します。

#### 研究のイメージ図

#### 抗腫瘍薬による胎盤形成・機能障害メカニズムの解析基盤の作出

胎盤細胞モデルを使用した解析

妊娠中に抗がん剤治療を受けた妊婦さんの臨床情報・胎盤組織の収集・解析



抗腫瘍薬が胎盤形成/機能へ及ぼす影響を評価するための基盤を作成

### 研究論文刊行成果(2021-2023)

#### 2023年

- Abe SK, Ihira H, Minami T, Imatoh T, Inoue Y, Tsutsumimoto K, Kobayashi N, Kashima R, Konishi M, Doi T, Teramoto M, Kabe I, Lee S, Watanabe M, Dohi S, Sakai Y, Nishita Y, Morisaki N, Tachimori H, Kokubo Y, Yamaji T, Shimada H, Mizoue T, Sawada N, Tsugane S, Iwasaki M, Inoue M. Prevalence of family history of cancer in the NC-CCAPH consortium of Japan. *Sci Rep* 2023;13:3128.
- Furutani M, Suganuma M, Akiyama S, Mitsumori R, Takemura M, Matsui Y, Satake S, Nakano Y, Niida S, Ozaki K, Hosoyama T, Shigemizu D. RNA-Sequencing Analysis Identification of Potential Biomarkers for Diagnosis of Sarcopenia. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2023;78:1991-8.
- Harada T, Tsuji T, Tanaka M, Konishi N, Yanagisawa T, Koishihara Y, Ueno J, Mizutani T, Nishiyama N, Soeda R, Hijikata N, Ishikawa A, Hayashi R. Priority of the basic and instrumental activities of daily living in older patients with cancer prescribed rehabilitation: a cross-sectional survey. *Support Care Cancer* 2023;31:503.
- Harada T, Tsuji T, Ueno J, Hijikata N, Ishikawa A, Kotani D, Kojima T, Fujita T. Association of sarcopenia with relative dose intensity of neoadjuvant chemotherapy in older patients with locally advanced esophageal cancer: A retrospective cohort study. *J Geriatr Oncol* 2023;14:101580.
- Harada T, Tsuji T, Yanagisawa T, Ueno J, Hijikata N, Ishikawa A, Hiroshige K, Kotani D, Kojima T, Fujita T. Skeletal muscle mass recovery after oesophagectomy and neoadjuvant chemotherapy in oesophageal cancer: retrospective cohort study. *BMJ Support Palliat Care* 2023 May 2;spcare-2023-004245. doi: 10.1136/spcare-2023-004245. Online ahead of print.
- Hasegawa N, Yasuda Y, Yasui-Furukori N, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Takaesu Y, Iida H, Muraoka H, Kodaka F, Iga JI, Hashimoto N, Ogasawara K, Ohji K, Fukumoto K, Numata S, Tsuboi T, Usami M, Hishimoto A, Furihata R, Kishimoto T, Nakamura T, Katsumoto E, Ochi S, Nagasawa T, Atake K, Kubota C, Komatsu H, Yamagata H, Ide K, Takeshima M, Kido M, Kikuchi S, Okada T, Matsumoto J, Miura K, Shimazu T, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R. Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study. *Psychiatry Clin Neurosci* 2023;77:559-68.
- Hirayama T, Ikezawa S, Okubo R, Mizuta T, Iwata S, Suzuki T. Mental health care use and related factors in adolescents and young adults with cancer. *Support Care Cancer* 2023;31:247.
- Honyashiki M, Decoster J, Lo WTL, Shimazu T, Usuda K, Nishi D. Mental Health Reform Processes and Service Delivery Shift From the Hospital to the Community in Belgium and Hong Kong. *Health Serv Insights* 2023;16:11786329231211777.
- Inoue Y, Li Y, Yamamoto S, Fukunaga A, Ishiwari H, Ishii M, Miyo K, Ujii M, Sugiura W, Ohmagari N, Mizoue T. The association between antipyretic analgesics use and SARS-CoV-2 antibody titers following the second dose of the BNT162b2 mRNA vaccine: An observational study. *Vaccine* 2023;41:7317-21.

# 広報課 活動実績(令和5年度)

## 2. プレスリリースの配信

令和5年度においても、JH支援の研究課題によりプレスリリースを配信

低出生体重による出生は心血管疾患や生活習慣病リスクを増加  
～日本初！出生体重と成人後期の生活習慣病の関連が明らかに～（令和5年11月21日）



PRESS RELEASE

報道関係者各位

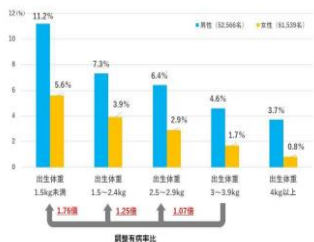
2023年11月21日  
国立成育医療研究センター  
国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部 (JH)

低出生体重による出生は心血管疾患や生活習慣病リスクを増加  
～日本初！出生体重と成人後期の生活習慣病の関連が明らかに～

国立成育医療研究センター（東京都世田谷区、理事長：五十嵐 隆）の社会医学研究部の森崎 菜穂、内分秘・代謝科の吉井 啓介らの研究グループは、国立がん研究センターなどと共同で行っている次世代多目的コホート研究（JPHC-NEXT）にて、出生体重と成人後期（40～74歳）の心血管疾患（心筋梗塞、脳梗塞など）リスク、および各種生活習慣病（高血圧・糖尿病・高脂血症・痛風）との関連を調べた研究を行いました。

その結果、成人後期の心血管疾患の罹患率は、出生体重が3kg台の方と比べて、低出生体重児（出生体重が2.5kg未満）の方は1.25倍、極低出生体重児（出生体重が1.5kg未満）の方は1.76倍と高いことが分かりました。（グラフ1）

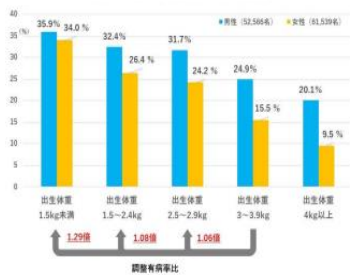
【グラフ1：心血管疾患（心筋梗塞、脳梗塞など）を経験したことがある割合】



また、心血管疾患のリスクとして知られている高血圧、糖尿病も出生体重が低いほど罹患率が高いことが分かりました。（グラフ2、3）

この研究で、出生体重と成人後期の生活習慣病の関連が日本で初めて明らかになりました。本研究結果は、疫学専門誌「Journal of Epidemiology」で発表されました（2023年11月18日 Web 先行公開）。

【グラフ2：高血圧を経験したことがある割合】



【グラフ3：糖尿病を経験したことがある割合】



### 【プレスリリースのポイント】

- 出生体重が小さい方ほど、成人後期に心血管疾患のリスクが高いことが分かりました。
- 出生体重が小さい方ほど、成人後期に高血圧、糖尿病の生活習慣病になりやすいことも分かりました。
- 出生体重と成人後期の生活習慣病の関連を、日本で初めて明らかにした研究成果です。
- 日本では10人に1人が出生体重2.5kg未満、100人に1人が出生体重1.5kg未満で生まれています。今後、低出生体重による出生が増えないための予防の取り組みや、低出生体重児として生まれた方の成人後の健康増進のために、本研究の知見が正しく周知され、予防医学の精度の向上に役立つことが期待されます。

### 【背景・目的】

- 令和6年度（2024年度）から第5次全国健康づくり（健康日本21（第三次））がスタートします。健康日本21（第二次）の評価では、生活習慣病の一次予防に関連する指標の悪化が指摘されました。
- 健康日本21（第三次）では、脳血管疾患・心疾患の年齢調整死亡率の減少、高血圧の改善、糖尿病患者の増加の抑制も目標に含まれています。
- 低出生体重が、心血管疾患や生活習慣病（高血圧・糖尿病など）のリスク因子になることは、ヨーロッパを中心とした疫学研究で明らかになっていましたが、日本人の大規模集団では調査されていませんでした。
- 日本では、1980年から2000年にかけて低出生体重児の割合が約2倍に増加し、その後も高止まりしています。1980年に出生した世代は2020年に40歳になり、生活習慣病を発症しやすい成人後期に差し掛かります。そのため、日本人においても出生体重が小さく生まれた方は、心血管疾患や生活習慣病の発症リスクが高いかを調べる研究が求められていました。

### 【研究概要】

研究対象：2011～2016年に、次世代多目的コホート研究（JPHC-NEXT）対象地域（秋田県、岩手県、茨城県、長野県、高知県、愛媛県、長崎県）にお住まいで、本研究に同意いただいた40～74歳の約11万人の方々

研究方法：①自分の出生体重と、心血管疾患および、各種生活習慣病（高血圧・糖尿病・高脂血症・痛風）にかかったことがあるかどうかをアンケートで回答。  
②出生体重を、1,500g未満、1,500～2,499g、2,500～2,999g、3,000～3,999g、4,000g以上の5つのグループに分け、それぞれのグループごとに心血管疾患、高血圧、糖尿病、高脂血症、痛風の発生率を算出。  
③自己申告による自身の出生体重が3,000～3,999gを基準として、その他の出生体重（1,500g未満、1,500～2,499g、2,500～2,999g、4,000g以上）における、心血管疾患および、各種生活習慣病の有無との関連を検討。その際、地域、出生年、教育歴、高血圧または糖尿病の家族歴、受動喫煙年数、身長、年上の兄弟の有無、初回妊娠時年齢、喫煙習慣、20歳時の体格を統計学的に調整し、これらの影響をできるだけ取り除いた調整有病率比（adjusted prevalence ratio）を算出。

### 【今後の展望・発表者のコメント】

本研究では、ヨーロッパを中心とした研究ですでに指摘されていた出生体重と生活習慣病との関連を、日本人で初めて調べました。その結果、低出生体重児や極低出生体重児として出生した方は、成人後期に心血管疾患を発症しやすく、また高血圧・糖尿病の生活習慣病を発症しやすいことが、日本人においても明らかになりました。今後は、幼少期からの生活習慣への介入など、低出生体重児として生まれた方々の成人期の健康を最適化するための研究が必要です。低出生体重による出生を予防するために、妊娠前・妊娠中の母親の健康と適切なケアも重要です。将来の妊娠のための健康管理に関する情報提供を男女問わず推進するなど、プレコンセプションケアに関する体制整備をさらに進めることも求められています。

※ 次世代多目的コホート研究（JPHC-NEXT）は「多目的コホート」に基づくがん予防や健康増進・健康に役立つがん予防の研究に関する研究（国立がん研究センター）、日本人の生活習慣・生活環境が、がんなどの生活習慣病とどのように関わっているのかを明らかにすることを目的とした研究です。2011年に始まり7歳16市町村の常陸国民112万人（研究開始時40万7千4百人）を対象として行われています。  
\* 出生体重の範囲：4000g以上＝高出生体重児、3500～4000g未満＝正出生体重児、2500g未満＝低出生体重児、1500g未満＝極低出生体重児。

\* 一次予防：予防医学における分類。食生活や適度な運動など、生活習慣の改善で病気にかからないようにすること。二次予防：人間ドックなどの定期検診。三次予防：リハビリなどで病気の再発を予防し社会復帰へつなげること。

# 広報課 活動実績(令和5年度)

## 3. FacebookなどのSNSを活用した、情報提供

JH自体はSNSアカウントを持っていないため、各NCの広報カウンターパートを通じ、各NCのSNSアカウント上で研究課題などの情報提供を行った。

**国立国際医療研究センター**  
1月23日

国立高度専門医療研究センター 医療研究連携推進本部(JH)は、全国のがんと難病の患者さんを対象に「全ゲノム解析等実行計画」を進めています。

来る2月12日(月・初)、患者・市民・支援者向けに「全ゲノム解析等実行計画」の全体像や準備状況に関するセミナーを開催します。

<https://www.japanhealth.jp/>

参加費は無料。  
参加ご希望の方は事前登録が必要です。  
申込締切は2月12日(月)13:00です。

[https://us02web.zoom.us/j/\\_reg\\_/WN\\_9F-05QAQ5Tm46tCOWHDVdQ](https://us02web.zoom.us/j/_reg_/WN_9F-05QAQ5Tm46tCOWHDVdQ)

---

**全ゲノム解析等実行計画と  
患者・市民参画**

患者、市民との協働の推進を目的とした「全ゲノム解析等実行計画」が進められています。患者さんやご家族のゲノム情報などを分析するデータベースに集め、情報の向上や治療法の研究開発に役立てています。

そこで、今回「全ゲノム解析等実行計画」の全体像や準備状況についてイベント形式でセミナーを実施しました。ぜひお越しください。

**2024年2月12日(月・開催日)**  
14:00~15:00 ZOOM ウェビナーによるオンライン開催

**国立がん研究センター**  
1月4日

【研究のご紹介】

国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部(JH)は、我が国の6つのナショナルセンターの資源・情報を集約し、世界最高水準の研究開発・医療を目指した新たなイノベーションを創出する一環として、若手研究者への助成を行っています。

当センターにおいてはJHの支援をいただき、以下の研究を進めています。...さらに表示

---

**JAPANHEALTH JP  
高齢食道癌患者における術前補助化学療法中の骨格筋量喪失予防を目的とした多臓器...  
研究概要**

近年、がん患者さんは国際的に高齢化しており、特に高齢者ではがん治療の...

**NCNP(国立精神・神経医療研究センター)**  
@NCNP\_PR

国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部(#JH)のHPでは、JHの支援を受けているNCNPの研究が紹介されています。若手研究助成課題(2023年度)では、神経研究所/疾病研究第三部 土肥 栄祐 室長の取り組みが掲載されています。

[japanhealth.jp/project/junior...](http://japanhealth.jp/project/junior...)  
#NCNP #神経研究所 #希少疾患 #生成AI

---

**希少疾患の症状・所見に重点を置いた、新規臨床データリソース創出**

希少疾患の診断は困難な疾患...  
診断に困難な疾患...  
診断に困難な疾患...

**国立成育医療研究センター National Center for Child Health and Development**  
2023年12月27日

「JH」は、当センターを含む6つの国立高度専門医療研究センターが連携し、世界最高水準の研究開発・医療を目指す組織です。当センターの臓器移植センターの清水誠一先生も、神経・筋疾患のある患者さんに対する肝臓外科治療についての研究を行っています。

[https://www.japanhealth.jp/\\_/younger2023/post\\_20.html](https://www.japanhealth.jp/_/younger2023/post_20.html)

## 4. リーフレットの更新

**具体的な取り組み(2023年度)**

- データ集積のための基盤強化・拠点化  
2023年度から開始したJH Super Highwayをはじめとしたデジタル共通インフラ整備を進め、また6NC間のMicrosoft365の連携利用可能な環境の構築を行う。
- 6NCの電子カルテからの患者情報の見直しと連携による共通臨床データベースの構築を進める。
- データ連携プラットフォームとの連携を目的とした連携・応答性データ連携推進協議会の推進に力を入れる。
- 6NC連携プラットフォームの活用・普及し、各診療科の連携を支援し、協力的な研究開発の推進に取り組む。
- 6NC連携プラットフォームの活用・普及し、各診療科の連携を支援し、協力的な研究開発の推進に取り組む。
- 1 NC内の患者のシステムにJHの6NC研究連携推進本部「連携」を行う。

**共同研究の推進**

共通の病態のメカニズム、あるいは6NC間で協力的な研究開発の推進を目的とする。

2023年度までに開始している共同研究推進事業について、各診療科の連携を促進し、協力的な研究開発の推進に取り組む。また、協力的な研究開発の推進を目的とした連携・応答性データ連携推進協議会の推進に力を入れる。

**知財・法務**

各NCの知財・法務・患者支援に関する情報を共有するとともに、その支援に関する共同研究推進協議会を推進する。

6NC共通する課題を解決するための知財・法務相談を提供し、その成果を6NCに還元する。

知財(法務)に関する相談・情報提供を支援するコンテンツを作成し、ICR-Web上に公開する。

**広報**

Webサイトの充実を図るとともに、6NC間の連携に関する取り組みについて、関係機関との連携を図り、広報活動を推進する。

JH研究課題の成果に関して、プレスリリースなどを通じて情報発信を行う。

Webサイト上の記事について、研究課題などへの活動成果を掲載できるように取り組む。

各診療科のSNSを通じて、共同研究を向上させる。

**人材育成**

各NCの人材育成に関する情報と連携を促し、各NCの連携推進本部の医師会・研究支援人材育成支援体制の構築に取り組む。特に、若手研究助成プログラム「JH-6NC」の推進を支援し、若手研究者の育成を支援する。

6NC共通教育プラットフォームを構築し、医療関係者の人材育成のために、6NC間の連携推進本部との連携を図る。共同研究推進協議会を行う。

**国立高度専門医療研究センター  
医療研究連携推進本部(JH)**  
<https://www.japanhealth.jp/index.html>

〒162-8555 東京都新宿区山手1-21-1  
(国立国際医療研究センター内)  
TEL 03-5273-4856 FAX 03-5273-4867  
Email: jr-ph@ncmg.jp

2023年11月版

---

**国立がん研究センター**  
活動方針

国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部(Japan Health Research Promotion Bureau: JH)は、国立がん研究センター、国立国際医療研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立成育医療研究センター、国立高度専門医療研究センター、国立国際医療研究センターの6つのナショナルセンターの資源・情報を集約し、世界最高水準の研究開発・医療を目指した新たなイノベーションを創出する一環として、若手研究者への助成を行っています。

上記ミッションを達成するため、以下のことを実施します。

新たなニーズに対応した研究開発機能を支援・強化  
6NC間のインターネットの高速化を支援し、JH Super Highwayとして、全ての連携施設(6NC)間で10Gbpsでの接続を実現し、6NC間の電子カルテ統合データベース(6NC-EHR)を構築し、研究開発可能な約70万人分、3.4億レコードの臨床データを連携。このデータを活用した研究を推進。

研究支援人材の育成に取り組むため、各NCの研究支援人材部門の連携を推進し、研究開発分野で決定した、優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。

6NC共通教育プラットフォームを構築し、医療関係者の人材育成のために、6NC間の連携推進本部との連携を図る。共同研究推進協議会を行うこと。また、さらに、日本全体の臨床研究の活性化を図ることを目的として2024年度に構築されました。

**全体的な方針**

新たなニーズに対応した研究開発機能を支援・強化  
6NC共通教育プラットフォームを構築し、医療関係者の人材育成のために、6NC間の連携推進本部との連携を図る。共同研究推進協議会を行うこと。また、さらに、日本全体の臨床研究の活性化を図ることを目的として2024年度に構築されました。

**運営体制**

6NC連携推進本部  
6NC連携推進本部  
6NC連携推進本部  
6NC連携推進本部  
6NC連携推進本部  
6NC連携推進本部

---

**これまでの主な取り組み**

**新たなニーズに対応した研究開発機能を支援・強化**

6NC間のインターネットの高速化を支援し、JH Super Highwayとして、全ての連携施設(6NC)間で10Gbpsでの接続を実現し、6NC間の電子カルテ統合データベース(6NC-EHR)を構築し、研究開発可能な約70万人分、3.4億レコードの臨床データを連携。このデータを活用した研究を推進。

研究支援人材の育成に取り組むため、各NCの研究支援人材部門の連携を推進し、研究開発分野で決定した、優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。

6NC共通教育プラットフォームを構築し、医療関係者の人材育成のために、6NC間の連携推進本部との連携を図る。共同研究推進協議会を行うこと。また、さらに、日本全体の臨床研究の活性化を図ることを目的として2024年度に構築されました。

**6NC連携で効果的な研究開発が期待される領域の取り組みを支援・強化**

協力的な研究開発 19 診療科の連携推進及び外部評価を実施。研究開発分野で決定した、優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。

NC連携推進プラットフォームの活用・普及し、各診療科の連携を支援し、協力的な研究開発の推進に取り組む。

6NC共通教育プラットフォームを構築し、医療関係者の人材育成のために、6NC間の連携推進本部との連携を図る。共同研究推進協議会を行うこと。また、さらに、日本全体の臨床研究の活性化を図ることを目的として2024年度に構築されました。

**6NC共通性への研究開発の実証的な成果を支援・強化**

6NC共通性への研究開発の実証的な成果を支援し、研究開発分野で決定した、優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。優秀な研究開発者を支援し、研究開発分野に貢献する。

JHが支援している研究課題やその成果等についてJHのホームページを拡充。

**JHが支援している研究**

**協力的な研究推進協議会**

2023年度開始 13課  
2024年度開始 4課

**若手研究助成課題**

2023年度開始 14課  
2024年度開始 14課

URL: <https://www.japanhealth.jp/projects/research/index.html>